

## ジョージア (グルジア) 便り その50 トビリシ時間と日本時間??

文 高野陽年 text by Yonen Takano

僕がトビリシの生活で気に入っているのは全てがコンパクトに集約しているところである。家も仕事場である劇場もショッピングセンターも近い。一杯ふらっと立ち寄るバー街もわかりだ。どこへ行くにも頑張れば歩ける距離で僕は一年間のほとんどの時間を過ごす。そして劇場にいる時間を除けば特に時間を気にする必要もない。

ところが夏休みに東京に帰るとなるとそうはいかない。思っている以上に移動に時間を割くことになり、せわしなく時計や時刻表を確認する生活だ。ゆっくり食事をしているとあつという間に電車に乗り遅れてしまったりする。

今日は乗り換えの時間をうまく利用し、品川駅内の立食い寿司で食事をすませることにした。暑そうにワイシャツの袖をたくし上げたサラリーマンや、買い物帰りの主婦、様々な人間が狭いスペースの中でさっさと食事をすませ、入れ替わり立ち替わりまた忙しそうな人が入ってくる。

そういうえばトビリシにはこういった立食いで一人でも気軽に入れる店一つも無い。リハーサルの間際にそういう

う店があれば僕らの栄養状況も改善されるだろう。これはもしかするとビジネスチャンスかと妄想を膨らませ、回転率や原価率を計算しているともっとも重要なことに気づいた。

ジョージアの間は時間に追われていないのだ。外回りの営業マンもいないし、わざわざ電車を乗り継いで買い物に行く主婦もいない。忙しそうにしている人を減多に見ない。しかも元来寂しがり屋で人懐っこい性格なのか、一人で飲食店で食事をするジョージア人は本当に稀である。就業中であろうがなかるうが好き時間に好きな人と食事をとることに重きをおくのだろう。

そして彼らはとてもマイペースである。ジョージア時間の30分は実際の1時間、今日の予定が明日になることに今となっては何の驚きもない。仕事をする上では何か弊害が起こるかもしれない。けれども時間を気にせずにとことん付き合ってくれるのも確かである。休憩時間は守らないがダンサーは就労時間を過ぎて練習を共にしてくれる。タクシーの運転手は僕の薬を探すのに言葉が分からないだろうからと車を停

め、問屋街に一緒に来てくれた。修理工は深夜まで黙々と柵の木を削っていた。

ジョージアは長寿の国として知られている。皆大酒飲みであるし、タバコも吸う。お世辞にも健康的な食生活とは言えないのに高水準であるようだ。流れる時間に身を任せ、どつしりと構え無理せず生きるジョージア流の時間の捉え方に、長寿の秘訣があるのかもしれない。

気づいたら僕も時間ですこしルーズになっていた。これはジョージアに長くいるせいなのかそれともただズボラなだけなのかは定かではない。

### Profile

2011年にロシアの名門ワガノワバレエアカデミーを卒業し、世界的振付家ナチョ・ドゥアトの指名を受け外国人初の正団員としてロシア国立ミハイロフスキー劇場に入団。主にドゥアト作品で活躍した後、2014年6月より世界的に絶大な人気を誇るバレリーナ、ニーナ・アナニアシヴィリに引き抜かれグルジア国立トビリシ・オペラ・バレエ劇場に移籍。現在はその団の主要なダンサーとして国内外の公演で劇場を牽引している。立教大学中退。

